

## クリス・ヴァン＝ホーレン議員（民主党）とリンゼー・グラム議員（共和党）による イスラエル-パレスチナ関係についての上院での演説（2024年3月14日）

### Senators Van Hollen and Graham on Israeli-Palestinian Relations

#### 訳者から

2023年10月7日のハマスによる攻撃をめぐる重要な疑問の一つは、イスラエル政府が事前にそのことを知っていたにもかかわらず、阻止するための措置を講じなかったのかという点である。2024年1月にイスラエルは、国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）の一部の職員がハマスによるイスラエル奇襲攻撃に関与したと主張し、各国のUNRWAへの拠出金停止を強く求めた。イスラエルはかねてから、UNRWAを含む国連の諸機関がイスラエルに対して偏向しており、時には反ユダヤ主義的だとさえ非難していた。この主張を受け、国連は独立調査団による検証を実施し、その後の調査結果においてイスラエルの主張に対する「裏付けとなる証拠が示されていない」と結論づけた。

クリス・ヴァン＝ホーレン上院議員（民主党・メリーランド州）は2024年3月14日、米国上院での演説で「ガザでハマスを存続させてきたのはUNRWAではなく、まさにネタニヤフ首相であり、10月7日の惨事が起こるまで、首相自身がガザにおけるハマスの支配を維持することが自身の利益になると考えていた」と発言した。彼は、ハアレッツ紙、CNN、ニューヨーク・タイムズによる調査報道を引用しながら、「カタール政府は長年に渡り、毎月数百万ドルを現金でガザ地区にイスラエル経由で運び、その資金は現地のハマス政権を支える一助となっていた」、「ネタニヤフ首相はこうした資金提供を容認しただけでなく、それを奨励していた」ことを示した。これらの資金提供は、「およそ10年間で数十億ドル」に上り、資金提供自体は「表向きは秘密」であったものの、米国政府も認識しており、「長年にわたりマスコミで広く知られ、議論されていた」ことを明らかにした。

ハマスへの支援を容認した理由として、次のような説明がなされている。「2012年12月、ネタニヤフ氏はイスラエルの著名なジャーナリスト、ダン・マルガリット氏に対し、ヨルダン川西岸地区におけるパレスチナ自治政府に対する対抗勢力として、ハマスを強力な存在に保つことが重要であると語った。マルガリット氏はインタビューの中で、ネタニヤフ氏から、ハマスを含む2つの強力なライバルが存在することで、パレスチナ国家の樹立に向けた交渉を行うよう迫られる圧力が軽減されると言われたとも語った」

訳者は10月7日以前からのイスラエルとハマスの関係についての記事をずっと探していたが、なかなかまとまったものがなく、先日、この民主党のヴァン＝ホーレン上院議員の演説に辿り着くことができた。本会議場でのこの演説は、実際にはチャック・シューマー上院議員（民主党）による「ネタニヤフ政権はもはやイスラエルのニーズに合致しておらず、イスラエルの未来について、新たな議論が必要である」という主旨の大胆な発言後に行われたものである。従って、今回翻訳した議事録には、シューマー上院議員に賛成のヴァン＝ホーレン議員（民主党）と反対の立場のリンゼー・グラム議員（共和党）の両方の演説が併記されている。リンゼー・グラム上院議員は、イスラエルを強力に支持するタカ派として知られており、今回の演説でもイスラエルのガザ攻撃を正当化する文脈で、「米国が第二次世界大戦を終わらせるために原爆を投下した決断」にも言及している。

\*ハアレッツ紙、CNN、ニューヨーク・タイムズによる調査報道の引用部分は赤い枠で示した。

[ ] 内は訳者が挿入した。

## クリス・ヴァン＝ホーレン議員（民主党）とリンゼー・グラム議員（共和党）による イスラエル－パレスチナ関係についての上院での演説（2024年3月14日）

チャック・シューマー上院議員（民主党・ニューヨーク州）は長年イスラエルを支持し、米国で最も地位の高いユダヤ系選出公職者であるが、10月7日にハマス過激派によるイスラエルへの攻撃で始まった戦争から5カ月が経過した2024年3月14日、上院において、「ネタニヤフ政権はもはやイスラエルのニーズに合致しておらず、イスラエルの未来について、新たな議論が必要である」とイスラエルでの新政権選挙の実施を求め、さらに「ネタニヤフ首相が”二国家解決案”の障害になっている」と発言した。

これを受けて、クリス・ヴァン＝ホーレン上院議員（民主党・メリーランド州）とリンゼー・グラム上院議員（共和党・サウスカロライナ州）は、それぞれ、本会議場で以下の演説を行った。

ヴァン・ホーレン上院議員はシューマー上院議員の発言を支持し、「パレスチナ国家の樹立と主権という考えを拒絶することは重大な過ちである」と述べた。一方、グラム上院議員はこの発言を「とてつもなく酷い」と評し、米国上院の院内総務であるシューマー氏が「イスラエル国民に対し、自国の政府を打倒するよう求める」ことは「出過ぎたことだ」と述べた。

<https://www.govinfo.gov/content/pkg/CREC-2024-03-14/html/CREC-2024-03-14-pt1-PgS2387-7.htm>

[合衆国議会記録 第170巻 第46号（2024年3月14日（木））]

[上院]

[S2387 - S2394 ページ]

政府印刷局（GPO）[[www.gpo.gov](http://www.gpo.gov)]による「オンライン議会記録」から

この演説は以下のページで観ることが出来る。

<https://www.c-span.org/program/us-senate/senators-van-hollen-and-graham-on-israeli-palestinian-relations/639824>

### <イスラエル>

**ヴァン＝ホーレン議員**：議長、先週の一般教書演説において、バイデン大統領は、2023年10月7日に発生したハマスの残忍なテロ攻撃により、約1,200人が惨殺され、240人が人質に取られた事態を受け、イスラエルには自衛する権利があると改めて正しく指摘されました。私もイスラエルは国民を守る義務があると思っています。二度と10月7日のような惨事があってはなりません。

バイデン大統領はまた、現在ガザで進行中の人道上の惨状についても言及されました。3万1,000人以上のパレスチナ人が死亡し - その3分の2以上が女性と子供 - さらに数千人が行方不明となり、瓦礫の下に埋もれていると見られます。ガザは地獄と化しており、数十年に渡り世界中で活動してきた人道支援団体は、これほど恐ろしい状況を目にしたことはないと言っています。ガザで苦しんでいる人々の中には、200万人以上の罪のないパレスチナ民間人だけでなく、米国人を含む130人以上の人質も含まれており、彼らは今もハマ스에拘束されたままです。

今週初め、私は、愛する人を拉致され、今も監禁されているイスラエル人の人質の家族数名と面会しました。また、11月の停戦期間中に人質として拘束され、解放された勇敢な女性とも会いました。

愛する人と引き離され、これから何が起こるか分からない日々は、想像を絶する精神的苦痛と苦悩に満ちた日々です。だからこそ、私たちは人質の解放を最優先し、パレスチナ民間人の苦しみを終わらせなければなりません。それを実現する唯一の方法は、直ちに停戦を確保し、残り的人質全員を解放することです。それは実現されなければなりません、それまでは、無実の民間人を守り、ガザでの人道的惨事を終わらせるために、できる限りのことをしなければなりません。

今日、地球上で最も飢えに苦しむ人々の5人に4人がガザにいます。そのうちの数十万人が飢餓の瀬戸際にあり、23人以上の子供たちがその恐ろしい一線を越え、飢餓で命を落としました。世界食糧計画(WFP)のシンディ・マケイン事務局長は、差し迫った飢饉について警告を発しています。負傷した子供たちは、麻酔なしに手足を切断されています。下水が路上に溢れ出し、人道支援関係者は、下痢など予防可能な様々な病気の子供たちへの感染が急増しているのを目撃しています。

2週間前、世界は恐ろしい光景を目の当たりにしました。100人を超える飢えたパレスチナ人が、トラックから配給される食料に手を伸ばした際に命を落としたのです。この悲惨な出来事を受け、バイデン大統領は食料の空中投下を命じました。私はその決定を支持します。なぜなら、人々が飢えている時、食料の一包一包が命綱となるからです。しかしながら、空輸は必要とされる支援の海の一滴に過ぎません。だから、大統領が船舶によるさらなる支援物資の輸送を可能にするため、仮設港の建設を命じたことは喜ばしいニュースですが、その港が完成するには少なくとも60日はかかる見込みで、たとえ完成したとしても、人道上のニーズを満たすには不十分だと考えられます。

空路や海路によるこうした並外れた支援活動は、この戦争前、ガザは既に事実上の封鎖下にあったにもかかわらず、ケレム・シャロム検問所を通過して約500台のトラックが毎日ガザへ入っていたという事実を知っている中で行われています。そして、その500台のトラックは、現在の状況よりもはるかに緊急性が低かった当時でさえ、毎日通過していました。

当然の疑問が浮かびます。なぜなのか？なぜ、トラックを使えばエジプトのラファ検問所やイスラエルからガザへの複数の検問所を通過して、はるかに効率的に十分な量の食料や支援物資を搬入できるにもかかわらず、空路や海路で不十分な量の食料や支援物資を届けるために、これほど異常で費用のかかる手段に頼らなければならないのでしょうか？

その答えは、これが人為的な災害だからです。

ガザでの飢餓は、世界の多くの地域で見られるような、干ばつやその他の自然災害による食糧不足の結果ではなく、主に、ネタニヤフ政権がガザへの援助物資の流入を制限するために一連の策略を用いたことが原因だからです。目があり耳があれば、誰でもその事実を知っています。

財務大臣スモトリッチや国家安全保障大臣ベン・グヴィルのようなネタニヤフ政権の閣僚たちは、その意図を隠そうとはしていません。10月、この戦争が始まった後、ベン・グヴィルは次のように述べました。「ハマスが人質を解放しない限り、ガザに入ってくるべきものは空軍の爆薬数百トンだけであり、人道支援は一オンスたりともあってはならない」

スモトリッチは財務大臣としての権限を濫用し、ガザの110万人を1ヶ月間養える量の小麦粉の輸送を阻止しました。それらは、人々が飢えに苦しむ中、少なくとも5週間も差し止められた末、ようやく2日前に輸送されました。

ある時点で、ネタニヤフ首相は、自らが率いる政府が必要な「最低限」の量しか許可していないと述べた。それは、彼や他の関係者が、ガザで人道上の災害が起きていることさえ否定し、ガザで食糧不足が起きていること、ガザで飢餓が起きていることを否定していた時期のことである。だからこそ、バイデン大統領はこうした制限を非難し、一般教書演説で次のように述べました。「人道支援は、二の次にしてはならないし、交渉の切り札

にしてはならない」

大統領は、自身の政権が「イスラエルに対し、より多くのトラックとルートを確保し、より多くの人々が必要な支援を受けられるよう、『言い訳は一切許さない』と強く求めていく」と述べました。

5週間以上前の2月2日、25人の上院議員がバイデン大統領に書簡を送り、ガザへの人道支援の量を大幅に増やすため、ネタニヤフ政権に対し5つの具体的な措置を実施するよう求めた。しかし今日に至るまで、そのいずれもが完全に実施されていません。

だからこそ、私たちの多くはバイデン大統領に対し、『対外援助法』第620I条『人道支援回廊法』を直ちに発動・実施するよう求めてきました。現在、私たち19名が『国家安全保障法』に対して提案した修正案に基づき、NSM（国家安全保障覚書）20が施行されている以上、バイデン政権がその条項を確実に履行し、人道支援を必要な場所に届けることが不可欠です。人々が飢えている時、忍耐は美德ではありません。

言うておく必要がありますが、ガザへの人道支援の搬入は戦いの半分に過ぎない。残りの半分、そしてより危険な半分は、ガザ内に物資が入った後の配給です。飢えている人々に食料を安全に届けることができなければ、何の役にも立ちません。つまり、ガザ内部で援助物資を安全に配給するシステムが必要なのです。現在、ガザ内部での支援物資の主要な配給機関となっているのは、国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）と呼ばれる組織です。アメリカ人の皆さんはUNRWAについてあまり耳にしたことがないかもしれませんが、なぜUNRWAが存在し、どのような活動を行っているのかについて、少しお話ししたいと思います。しかしその前に、なぜこれが今、差し迫った問題となっているのかについて触れたいと思います。

UNRWAの将来が今、緊急の課題となっているのは、ネタニヤフ首相とその極右の同盟者たちが、ガザだけでなく、UNRWAが活動するあらゆる場所から同機関を排除しようとしているからです。そして、驚くべきことに、ネタニヤフ首相と彼の政権内の極右勢力は、10月7日以降だけでなく、少なくとも2017年頃からUNRWAの廃止を望んでいたのです。実際、2018年には、ネタニヤフ首相はUNRWAに関するイスラエルの公式政策を変更し、UNRWAへの資金提供をすべて打ち切る意向を表明しました。これは、彼の安全保障チームが、そうなれば地域全体に不安定さを招く恐れがあると警告していた時期にも、行われたことでした。

今や、下院と上院の共和党議員たちがこの流れに便乗し、UNRWAを廃止したいと主張しています。そして、彼らはそれをどう実現しようとしているのでしょうか？ 私たちがここに集まっているまさに今、審議と議論が進められている「国務省・対外活動・関連プログラム歳出法案」に、UNRWAへの米国の資金援助をすべて打ち切る条項を盛り込むことで、それを実現しようとしているのです。それが共和党議員たちの狙いです。

それでは、そもそもなぜUNRWAが設立されたのか、その理由に立ち返ってみましょう。1949年 - イスラエル建国から1年後 - 国連は、第一次中東戦争（1948~1949年）中に避難を余儀なくされた70万人以上のパレスチナ難民に不可欠な支援を提供するため、新たな機関を設立しました。当時、UNRWAは、パレスチナ難民の窮状に対する公正かつ永続的な解決策が見つかるまで、彼らに支援を提供するという考えでした。周知の通り、73年以上の歳月が経過した今もその紛争は未解決のままで、UNRWAの使命は依然として不可欠なものです。UNRWAは、ヨルダン、レバノン、シリア、ヨルダン川西岸地区、そしてガザにおいて、パレスチナ難民とその子孫に、学校や一次医療サービスなどを提供しています。

パレスチナの人々が尊厳を持って生きるに値するということには、私たち全員が同意できると願っています。それを実現する方法は、全てのイスラエル人が民主的なユダヤ人の国イスラエルにおいて尊厳と自己決定権を享受するのと同様に、パレスチナ人もまた、自らの祖国において自己決定権を保障されるようにすることです。

バイデン大統領や私、そして多くの人々は、この紛争に対する唯一実行可能で長期的な解決策は「二国家解決案」であると信じており、バイデン大統領は、この極めて暗いトンネルの先に一筋の光を見出すための最善の道として、その構想を提示されています。UNRWAは本来、そのような解決が達成されるまでの架け橋となる

ことを意図していたのです。

ネタニヤフ首相は、二国家解決案に反対であることを極めて明確に表明しています。彼はオスロ合意にも反対しており、二国家解決案の強力な反対者であり続けてきました。そして先ほど申し上げた通り、彼は UNRWA の廃止も望んでいます。UNRWA は現在、3 カ国、そして先ほど述べたようにヨルダン川西岸地区及びガザ地区のパレスチナ人にサービスを提供する、3 万人以上の職員を擁する組織です。

議長、UNRWA の職員 3 万人のうち 1 万 3 千人がガザで活動しており、その多くは教師です。10 月 7 日にハマスがイスラエルに対して行った残忍な攻撃によって戦争が始まって以来、ガザにある UNRWA の学校は閉鎖されています。そして国連機関として、UNRWA は現地の民間人に対し人道支援を提供するために資源を投入しています。UNRWA は、ガザにおける人道支援物資の配給を担う主要な窓口です。ガザの人々にその支援を届ける主要な責任を負う国連機関を解体してしまえば、ガザに人道支援を届けること自体に何の意味もありません。

今朝、私はワールド・セントラル・キッチン (WCK) 創設者でシェフのホセ・アンドレス氏と会談し、彼自身の取り組み、そしてイスラエルやガザを含む世界各地での WCK の活動に対し、称賛の意を表しました。彼は次のように述べた。「UNRWA への支援は不可欠だ。人々に食料を届けるためには、UNRWA を支援しなければならない」

一時的な港は確保できたとしても、船が港に到着した際には、誰かがその食料やその他の支援物資を船から、ガザで支援を必要としている人々に届ける必要があり、UNRWA がそれが支援物資の主要な配布機関なのです。世界食糧計画 (WFP) などに話を聞けば、彼らは UNRWA が持つその能力を代替することはできないと、はっきりと述べています。

1 月下旬、ネタニヤフ政権は、UNRWA の 1 万 3000 人の職員のうち最大 14 人が、10 月にイスラエルに対して行われた凄惨な攻撃に加担したと主張しました。これらは当然ながら極めて深刻な疑惑であり、UNRWA もこれを真摯に受け止めています。その惨事に関与した個人は誰であれ責任を問われるべきであるという点では意見が一致しており、ネタニヤフ政権が UNRWA に裏付けとなる証拠を提示していないにもかかわらず、UNRWA は直ちに容疑者を解雇しました。

国連事務総長も迅速な対応を取り、国連の最高調査機関が主導する、この疑惑に関する全面的かつ独立した調査の開始を発表しており、現在も調査は進行中です。同時に、バイデン大統領は、その調査の結果が出るまで、UNRWA への米国の拠出金をすべて停止し、他の多くの国々も、EU と同様にこれに追随しています。

しかし、それ以来、二つの変化が生じています。第一に、ネタニヤフ政権はその根拠となる証拠を UNRWA と共有しておらず、『ウォール・ストリート・ジャーナル』紙が報じたように、米国に対しても一次資料を共有していません。実際、私は上院の同僚議員全員に対し、国家情報長官 (DNI) が作成した機密報告書を読むよう強く求めるとともに、特に、ネタニヤフ政権が UNRWA に対して提起してきた数多くの他の主張に関する情報評価を読むよう強く求めます - その数は非常に多いのですが。私の同僚の多くは、UNRWA が長年、イスラエルと米国に対し、全職員の氏名及び身元情報を提供し、徹底的な審査と身元調査を行わせてきたという事実を知らないと確信しています。もちろん、イスラエルは UNRWA よりも遙かに広範な情報収集能力を有していますが、イスラエル側はこれまで、提供されたリストに載っている UNRWA 職員について、これまで一度も苦情を申し立てたことはないようです。

第二に、当初 UNRWA への財政支援を停止していた EU や多くの国々は、ガザの絶望的な状況と UNRWA が、かけがえのない存在であることを認識したため、その後、拠出を再開しています。実際、これらの疑惑が浮上する以前から、UNRWA は国連事務総長に対し、中立性を確保するために UNRWA が全力を尽くしているかどうかを評価するための独立審査グループの設置を要請していました。

つまり、繰り返しになりますが、ガザの UNRWA - 1 万 3000 人の職員を擁するこの組織は、200 万人以上の人々に、生命を維持するために不可欠な支援を提供しているのです。そして、EU や UNRWA への資金提供を再開した他の国々は、14 人の残虐などされる行為を理由に、200 万人への支援を打ち切るのは非人道的だということ認識しているのです。14 人は処罰されるべきですが、200 万人の罪のないガザの人々を罰してはなりません。だからこそ、私はバイデン大統領が今すぐこの支援を再開すべきだと考えています。

UNRWA が何らかの形でハマスのフロント組織であるという主張は、完全な嘘に他なりません - これは紛れもない誤情報です。バイデン大統領が同地域の米国人道調整官として派遣した人物は、ベテラン外交官であるデビッド・サターフィールド大使です。彼は、UNRWA が提供する人道支援がハマスに流用されているというネタニヤフ政権の閣僚らによる主張を、繰り返し否定してきました。具体的には、彼は次のように述べています。「10 月 21 日にガザでの人道支援が再開されて以来、ハマスによる米国やその他の支援物資、あるいは国連が提供する支援物資に含まれる燃料の流用や窃盗に関する申し立て・証拠・報告を、我々のパートナーやイスラエル政府から一切受けていない」

イスラエル政府当局者やその他の関係者から、ハマスによる UNRWA やその他の国連機関が輸送していた支援物資の横流しに関する報告は、一つもありません。同僚の議員の皆さん、今日ガザでの現地活動を統括しているのは、スコット・アンダーソンという名のアメリカ人であることを皆さんは知っておくべきです。彼はサウスダコタ州出身の、陸軍に 21 年間も在籍したベテランで、とても実直な人物です。私は全ての上院議員に彼と話をしよう強く勧めます。スコット・アンダーソンがハマスのフロント組織の一員であるという考えは、明らかに荒唐無稽です。

実のところ、戦争が始まる前から、ネタニヤフ首相は、UNRWA がハマスの代理組織であるという理由で同機関を解体したいと公言することはありませんでした。彼はかねてより、ガザだけでなく、西岸地区やヨルダンなど、パレスチナの学童への教育支援やパレスチナ人への医療支援を行っているあらゆる地域の UNRWA を排除したいと考えていたのです。前述の通り、彼は少なくとも 2017 年頃からその実現を目指してきました。そして今や、連邦議会の共和党議員たちが彼に同調し、ガザだけでなく地域全体における UNRWA への米国の支援を全面的に打ち切るよう求めています。

UNRWA や国連の信用を傷つけようとする動きは甚だしく、国連の主要な人道支援・難民支援機関の 18 人のトップが、セーブ・ザ・チルドレンや CARE といった NGO と共に、「人命救助に全力を尽くしている国連や非政府組織の信用を傷つけようとするキャンペーンを中止せよ」と求める声明に署名したほどです。こうした動きは、様々な人道支援組織が人命を救うことをより困難にしています。

もしヨルダン川西岸地区の緊迫した状況をさらに悪化させたいのなら、現地の子供たちの学校を閉鎖し、教育の機会を全て奪い、彼らが抱く明るい未来への希望を全て打ち砕けばよい。本当にそうしたいのですか？

ヨルダンに混乱を引き起こしたいなら、現地の UNRWA の学校やサービスを閉鎖すればよい。私たちは皆、ヨルダンのアブドラ国王が UNRWA の閉鎖がパレスチナ難民の大量流出を引き起こし、ヨルダンの国家存立を脅かす「破滅的な事態」を招くと警告していたのを知っているはずですが。

現在の状況で驚くべき点は、ネタニヤフ首相が「UNRWA はガザのハマスの代理組織である」という虚偽の主張を利用し、世界中の UNRWA を閉鎖するという長期的な目標を達成しようとしていることです。

さらに皮肉なことに、ガザでハマスを存続させてきたのは UNRWA ではなく、まさにネタニヤフ首相自身なのです。その理由を説明しましょう。

ご存知のように、ここ米国上院では、長年に渡りハマスを支援してきた悪意ある勢力について多くの議論がなされてきました。その一つが、極めて有害な勢力であるイランです。

確かに、イランはハマスを創設したわけでもなければ、ハマスに対して指揮統制を行使しているわけでも

ありません。しかし、イランはハマスを支援しています。なぜなら、イランと同様に、ハマスもイスラエルを消滅させるという非道な目標を持っているからです。それが、イランがハマスを支援してきた理由です。

しかし、私たちがめったに、あるいは全く議論しないのは、10月7日の予期せぬハマスの攻撃という惨事が起こるまで、ネタニヤフ首相自身が、ガザにおけるハマスの支配を維持することが自身の利益になると考えていたという、不都合な真実です。

私の言葉を鵜呑みにする必要はないのですが、ネタニヤフ首相は2019年のリクード党の会合で、自らの口で次のように語っています。「パレスチナ国家の樹立を阻止したいと思う者は誰でも、ハマスの強化を支持しなければならない。これは、パレスチナ人をガザ地区とユダヤ・サマリア地区の両者に分断するという我々の戦略の一環である」

繰り返します。ネタニヤフ首相は「パレスチナ国家の樹立を阻止したいと思う者は誰でも、ハマスの強化を支持しなければならない」と述べているのです。

議長、昨年10月に『ハアレツ』紙に掲載された「ネタニヤフ・ハマス同盟の簡略史」と題された記事を議事録に収録したいと思います。これを議事録に収録することについて、全会一致の同意を求めます。

(異議がなかったため、当該資料は議事録に以下のとおり収録されることが決定されました。)

【ハアレツ紙からの引用、2023年10月20日】

### ネタニヤフ・ハマス同盟の簡略史

(アダム・ラズ著)

14年間にわたり、ネタニヤフの政策はハマスを政権に留まらせることだった。2023年10月7日の虐殺は、イスラエル首相が自らの支配を維持するのに役立っている。

ベンヤミン・ネタニヤフとハマスとの長年に渡る関係 - むしろ同盟 - については、これまでに多くの紙面が割かれてきた。それにもかかわらず、イスラエル首相（右派の多くからの支持を得て）と原理主義組織との間に緊密な協力関係があったという事実そのものが、現在の分析の大部分からはまるで消え去ってしまったかのようだ - 誰もが「失敗」、「過ち」、「contzeptziot」（固定観念）について語っている。こうした状況を踏まえると、協力の歴史を検証するだけでなく、次のように明確に結論付ける必要がある。つまり、2023年10月7日の虐殺は、ネタニヤフにとって、決して初めてのことではないが、少なくとも短期的には、自身の支配を維持するのに役立っているのだ。

2009年に首相の座に復帰して以来、ネタニヤフの政策の手法は、ガザ地区におけるハマス支配を強化する一方で、パレスチナ自治政府を弱体化させることであり、現在もその傾向は続いている。

彼の政権復帰は、前任者エフード・オルメルトの政策からの完全な転換を伴っていた。オルメルトは、最も穏健なパレスチナ指導者であるパレスチナ自治政府のマフムード・アッバス議長との和平条約を通じて紛争を終結させようとしていた。

過去14年間、ヨルダン川西岸地区とガザ地区に対して「分断統治」政策を実施する一方で、「アブ・ヤイル」[アラビア語で「ヤイルの父」の意。ネタニヤフが最近の選挙前のアラブ系コミュニティでの選挙運動中に自らをそう呼んだ]は、ハマス政権を終わらせかねないあらゆる軍事的・外交的試みに抵抗し続けてきた。

実際には、2008年末~2009年初頭のオルメルト政権時代の「キャスト・リード作戦 [22日間のガザ地区への大規模軍事攻撃。約1,400人のパレスチナ人が死亡]」以降、ハマス政権が直面した真の軍事的脅威は存在しない。それどころか、同組織はイスラエル首相によって支援され、彼の助力のもとで資金提供を受けてきた。

2019年4月、ネタニヤフは、これまでのあらゆる戦闘の度にそうしてきたように、「我々はハマスに対す

る抑止力を回復した」とし、「主要な補給路を遮断した」と宣言したが、それは真っ赤な嘘だった。

10年以上に渡り、ネタニヤフは様々な形で、増大するハマスの軍事的・政治的勢力に手を貸してきた。ハマスを、資源の乏しいテロ組織から準国家的な組織へと変貌させたのは、ネタニヤフその人である。

パレスチナ人囚人の釈放、現金の送金の許可、カタールの特使が自由気ままにガザを行き来することの容認、多種多様な物資、特に建設資材の輸入への同意（その資材の多くが民間インフラの建設ではなくテロ活動に充てられることを承知の上で）、ガザからのパレスチナ人労働者に対するイスラエルでの就労許可数の増加など。これら一連の展開は、原理主義的テロリズムの台頭とネタニヤフ政権の維持との間に共生関係を生み出した。

重要な点として、ネタニヤフが資金の移転を許可した際、貧しく抑圧されたガザの住民たち - 彼らもまたハマスの犠牲者である - の福祉を慮っていたと考えるのは誤りである（前述の通り、その資金の一部はインフラ整備ではなく、軍事兵器の調達に充てられた）。彼の目的は、アッバスの権力を削ぎ、イスラエルの地が2つの国家に分割されるのを防ぐことだった。

忘れてはならないのは、カタール（及びイラン）からの資金がなければ、ハマスは恐怖政治を維持するための資金が足りず、その政権は自制を余儀なくされていただろうということだ。

実際には、カタールからの現金供与（説明責任が格段に重い銀行預金とは対照的に）は、ネタニヤフが支持し承認した慣行であり、2012年以降、ハマスの軍事部門を強化する役割を果たしてきた。

つまり、アッバス氏が、自分や自身の政策、そして自国民に対するテロに利用されることになることを承知の上で、ハマスへの資金提供停止を決定した後、ネタニヤフ氏は間接的にハマスに資金を提供したことになる。ハマスがこの資金を、長年に渡りイスラエル人を殺害するための武器購入に充てていたという事実を無視してはならない。

**ヴァン＝ホーレン議員**：結局のところ、ハマスがガザを支配している限り、ガザとヨルダン川西岸を含むパレスチナ国家をイスラエルに受け入れるよう、誰が求めることができるのでしょうか？これは妥当な疑問だと思います。

では、ネタニヤフ首相はどのような方法で、ハマスがガザでの支配を維持できるようにしてきたのでしょうか？この場で頻繁に話題に上っているもう一つの事柄は、カタールからハマスに流れた資金です。その資金の全てが、ネタニヤフ首相とイスラエルの黙認の下でカタールからハマスへと流れたことは、十分に立証されています。これは上院外交委員会及び銀行・住宅・都市問題委員会の両方で、証人たちが証言した内容です。また、数多くの報道機関によっても十分に記録されています。

議長、私は「カタール、イスラエルの支援の下で長年に渡りガザへ数百万ドルを送金」と題するCNNの記事を議事録に収録するよう、全会一致の同意を求めます。

（異議がなかったため、当該資料は議事録に以下のとおり収録されることが決定されました。）

【CNNからの引用、2023年12月12日】

**カタール、イスラエルの支援の下で長年に渡りガザへ数百万ドルを送金  
物議を醸すこの取引について判明している事実**

（ニマ・エルバギル、バーバラ・アルヴァニティデス、アレックス・プラット、ラジャ・ラゼク、ナディーーン・イブラヒム、ウリ・ブラウ著）

10月7日のハマスによるイスラエル攻撃以来、湾岸国家のカタールが、パレスチナの武装組織が支配するガザに数億ドルの支援を送ったとして、イスラエル当局者や米国の政治家、メディアから非難を浴びている。

しかし、これら全てはイスラエルの黙認の下で行われていた。

イスラエルの調査報道団体「Shomrim (シヨムリム)」との共同取材により、イスラエルの主要関係者らへの一連のインタビューから、CNN は、ベンヤミン・ネタニヤフ首相が、自政府内部から懸念が示されていたにもかかわらず、ハマスへの資金提供を継続していたことを突き止めた。

カタールは、こうした支援を停止しないと明言してきた。カタールの外務担当国務大臣モハメド・ビン・アブドゥルアジズ・アル＝クライフィ氏は月曜日、CNN のベッキー・アンダーソン記者に対し、政府はこれまで何年も行ってきたように、ガザ地区を支援するために、同地区への支払いを継続すると述べた。

「我々はこの使命を変えるつもりはない。我々の使命とは、パレスチナの兄弟姉妹に対する継続的な支援と援助である。これまで通り、組織的に活動を続けていく」とアル＝クライフィ氏は述べた。

これに対しイスラエル側の情報筋は、歴代の政府が人道的理由からガザへの資金送金を容認してきたこと、そしてネタニヤフ首相が 10 月 7 日の攻撃後、ハマスに対して断固とした措置を講じたことを指摘して反論した。

これらの資金提供と、その円滑化におけるイスラエルの役割について、現時点で分かっていることは以下の通りである。

#### <カタールによる資金提供はいつ始まったのか？>

2018 年、カタールはガザ地区への月々の支払いを開始した。約 1,500 万ドルが現金入りのスーツケースでガザ送られた - これは、イスラエルとの数ヶ月にわたる交渉の末、カタール側がイスラエル領内を経由して届けた。

この支払いは、イスラエル占領下のヨルダン川西岸地区に拠点を置き、ハマスと対立関係にあるパレスチナ自治政府 (PA) が、2017 年にガザ地区の公務員への給与支給を停止することを決定した後に始まったものであると、この件に詳しい当時のイスラエル政府関係者が CNN に語った。

#### <イスラエルはハマスによる 10 月 7 日の攻撃について、何を把握していたのか？>

当時、PA はカタールからの資金提供に反対したが、ハマス側は、それら資金は公務員の給与支払いや医療目的のためのものであると説明していた。

イスラエルは 2018 年 8 月の安全保障閣僚会議でこの合意を承認し、その当時はネタニヤフ氏が前回の首相在任中であった。

当時から、ネタニヤフ氏はこの合意やハマスに対する姿勢が甘すぎると、連立与党のパートナーから批判を受けていた。

首相は当時、この取り組みを擁護し、この合意は「(イスラエル) 南部の村々に平穏を取り戻すため、かつ (ガザでの) 人道的災害を防ぐために、安全保障の専門家と調整して行われた」と説明していた。

ヨルダン川西岸地区のパレスチナ解放機構 (PLO) 執行委員であるアフマド・マジダラニ氏は、米国がこの資金提供を画策したと非難していた。

この件の機密性から匿名を条件に CNN に語った、同地域に関与した元米 국무省高官によると、米国はカタールによるハマスへの資金提供を認識していたという。

同高官によると、カタールは 2014 年のガザ侵攻 (イスラエル - ハマス戦争) の時点で、ガザ地区の人道危機を緩和するため、ハマスを通じて資金を提供する準備ができていたが、当時の米国は、これを許可するかどうかをイスラエル側に委ねていたという。「我々は、これがイスラエル側の望むことかどうかについて、完全にイスラエル側に判断を委ねた」と同高官は述べた。

### ＜なぜイスラエルは資金提供を支持したのか？＞

イスラエル及び国際メディアの報道によると、カタール経由でガザへの支援を継続するというネタニヤフ首相の計画は、ハマスを PA に対する効果的な対抗勢力とし、パレスチナ国家の樹立を阻止できるかもしれないという期待に基づくものだった。

PA 当局者は当時、この資金提供がパレスチナ各派閥間の分裂を助長すると述べていた。

イスラエル国防省の元高官であるアモス・ギラド少将は、CNN に対し、この計画は首相によって支持されていたが、イスラエルの諜報機関からは支持されていなかったと語った。また、同計画が「パレスチナの主権を弱体化させる」との見方も一部にあったと彼は述べた。さらに「(ハマスに) 金を与えれば、彼らは飼いならされるだろう」という幻想もあったと付け加えた。

イスラエル国家安全保障担当顧問の元副官であるシュロモ・ブロム氏は、ニューヨーク・タイムズ紙に対し、勢力を拡大したハマスがネタニヤフ氏にとってパレスチナ国家をめぐる交渉を回避する助けとなったと語った。同氏は、パレスチナ側の分裂が、ネタニヤフ氏にとって「パレスチナ側に和平のパートナーはいない」という主張を裏付ける材料となり、その結果、独立したパレスチナ国家の樹立につながる可能性のある和平交渉への圧力を回避できたと述べた。

元国務省高官は、2014 年の戦争後、イスラエルは複数のイスラム主義組織がガザを支配するよりも、ガザを政治的空白状態に置くよりも、ハマスがガザを支配している方がましだと感じていたと述べた。「イスラエル側は、弱体化した形であれ、ハマスが権力を維持することに満足しているという印象を我々は抱いていた」と、同高官は述べ、「我々の理解では、ガザにおける数ある悪い選択肢の中で、ハマスは比較的マシな選択肢だった」と付け加え、少なくとも対立する PA がハマスをヨルダン川西岸地区から締め出すことができる点を指摘した。

**ヴァン＝ホーレン議員**：議長、昨年 12 月のニューヨーク・タイムズ紙に掲載された『沈黙の代償』：ハマスを支えたイスラエルの計画の内幕」と題する記事を議事録にすることについて、全会一致の同意を求めます。

見出しの下には「ネタニヤフ首相は、強力な（ただし、強大すぎない）ハマスが平和を維持し、パレスチナ国家樹立への圧力を軽減することに賭けた」とあります。

（異議がなかったため、当該資料は議事録に以下のとおり収録されることが決定されました。）

【ニューヨーク・タイムズ紙からの引用、2023 年 12 月 10 日】

『沈黙の代償』：ハマスを支えたイスラエルの計画の内幕

（マーク・マツェッティ、ロネン・バーグマン著）

ベンヤミン・ネタニヤフ首相は、強力なハマス（ただし、強大になりすぎない程度）であれば、平和を維持し、パレスチナ国家樹立への圧力を軽減できると賭けた。

ハマスが 10 月 7 日にイスラエルに対して致命的な攻撃を仕掛けるわずか数週間前、モサド長官がカタールのドーハを訪れ、カタール当局者と会談していた。長年に渡って、カタール政府は毎月数百万ドルをガザ地区に送金しており、その資金は現地のハマス政権を支える一助となっていた。イスラエルのネタニヤフ首相は、こうした資金提供を容認しただけでなく、その行為を奨励していた。

9 月にカタールの当局者らと会談した際、その極秘会談に詳しい複数の関係者によると、モサド長官のダヴィド・バルネア氏は、議題にはなかった質問を投げかけられ、それは、「イスラエルは資金提供の継続を望んでいるか」というものであった。

ネタニヤフ政権は直前にこの政策を継続することを決定していたため、バルネア氏は「はい」と答えた。イスラエル政府は依然としてドーハからの資金提供を歓迎していた。

この資金提供 - およそ 10 年の間に数十億ドルに上る - の容認は、ネタニヤフ氏による賭けであった。安定した資金の流れが、最終的には 10 月 7 日の攻撃の発端となったガザの平和を維持し、ハマスを戦闘ではなく統治に専念させ続けるという賭けだった。

表向きは秘密とされていたものの、カタールからの資金提供は、イスラエルのメディアでは長年に渡り広く知られ、議論されてきた。ネタニヤフ氏を批判する人々は、これを「沈黙の代償」戦略の一環として非難しており、この政策は攻撃を受けて現在、容赦ない見直しの真っ只中にある。ネタニヤフ氏はこうした批判に対し、自身がハマスの勢力を強化しようとしたという指摘を「ばかげている」と一蹴した。

ニューヨーク・タイムズ紙は、イスラエル、米国、カタールの現職及び元高官、並びにその他の中東諸国の政府高官ら 20 名以上へのインタビューを通じて、この政策の起源、イスラエル政府内で勃発した論争、そしてカタール側を批判から守り、資金の流れを維持するためにネタニヤフ氏がどれほど尽力したかについて、新たな詳細を明らかにした。

この資金提供は、イスラエルの政治指導者、軍幹部、情報当局者による一連の決定の一部であり、これらは全て、ハマスには大規模な攻撃を行う意図も能力もないという、根本的に誤った評価に基づいていた。同紙は以前、攻撃に先立つ諜報機関の失敗やその他の誤った想定について報じていた。

イスラエル軍がハマスによる侵攻作戦計画を入手し、分析官たちが国境を越えたガザ地区で大規模なテロ訓練を確認していたにもかかわらず、資金の支払いは続いた。長年もの間、イスラエルの諜報員たちはカタールの高官をガザ地区まで護衛し、そこで高官は数百万ドルが詰まったスーツケースから現金を配っていた。

カタールからの資金は、ガザの政府職員への給与支払いや、発電所の稼働を維持するための燃料購入といった人道的目的が掲げられていた。しかし、イスラエルの情報当局者は現在、たとえその資金がハマス自身の予算の一部を軍事作戦に転用することを可能にしたという理由だけであっても、10 月 7 日の攻撃の成功にその資金が寄与したと見ている。

これとは別に、イスラエル情報当局はかねてより、カタールが他のルートを通じてハマス軍事部門に密かに資金を提供していると分析してきたが、カタール政府はこの非難を否定している。

「カタールの支援が民間・人道的な性質を持ち、肯定的な影響を与えているという事実に対し、不確実性の影を落とそうとするいかなる試みも根拠がない」と、カタール当局者は声明で述べた。

ネタニヤフ首相官邸の関係者は声明で、「歴代のイスラエル政権がガザへの資金提供を認めたのは、人道的な理由によるものであり、ハマスを強化するためではなかった」と述べた。その関係者はさらに、「ネタニヤフ首相はハマスを大幅に弱体化させるために行動した。彼はハマスに対して 3 回の強力な軍事作戦を指揮し、数千人のテロリストとハマス幹部を殺害した」と付け加えた。

ハマスは常に、イスラエル国家の消滅を目指すという姿勢を公に表明してきた。しかし、その度に支払われた資金は、イスラエル政府がハマスを三流の脅威、いやむしろ政治的資産と見なしていたことの証左であった。

2012 年 12 月という早い時期から、ネタニヤフ氏は著名なイスラエル人ジャーナリストのダン・マルガリット氏に、西岸地区におけるパレスチナ自治政府に対する対抗勢力としてハマスを強力な存在に保つことが重要であると語っていた。マルガリット氏はインタビューで、ネタニヤフ氏がハマスを含む 2 つの強力なライバルが存在することで、パレスチナ国家の樹立に向けた交渉を行うよう迫られる圧力が軽減されると語ったと述べた。

首相官邸の関係者は、ネタニヤフ氏がそのような発言をしたことはないと言った。しかし、首相は長年に渡り、このような考えを他の人々に語っていた。

イスラエル軍や情報機関の指導者たちは、ハマスによる攻撃に至るまでの失策を認めているが、ネタニヤ

フ氏はこうした疑問に答えることを拒んでいる。そして、ガザで戦争が激化する中、過去 15 年のうち 13 年間で首相として務めてきたこの人物に対する政治的な清算は、現時点では保留となっている。

しかし、ネタニヤフ氏を批判する人々は、彼のハマスへのアプローチについて、その核心には皮肉な政治課題を含んでいると言っている。それは、ハマスの脅威やパレスチナ人のくすぶる不満に対処せずに政権を維持する手段としてガザを沈黙させるというものだ。

2021 年 7 月から今年の初めまでイスラエルの国家安全保障問題担当補佐官を務めたエヤル・フラタ氏は「過去 15 年以上のネタニヤフ首相の考え方は、『沈黙を代償として問題が存在しないふりをすれば、じっと待っているうちに、事態は自然に収束する』というものだった」と述べた。

### <均衡を求めて>

ネタニヤフ氏とその安全保障担当補佐官たちは、ガザ地区におけるハマスとの幾度もの血なまぐさい、かつ決着のつかない軍事衝突を経て、ガザ地区に対する戦略を徐々に見直し始めた。

「誰もがガザにうんざりしていた」と、モサドの元情報部長ゾハル・パルティ氏は語った。「我々は皆、『ガザのことは忘れよう』と言っていた。行き詰まりだと分かっていたからだ」

2014 年の紛争の 1 つを終えた後、ネタニヤフ氏は新たな方針を打ち出した。イスラエルがイランの核開発計画やヒズボラのような代理軍に注力する一方で、ハマスを「封じ込める」戦略を重視するというものだ。

この戦略は、ハマスがイスラエル国内で大規模な攻撃を仕掛ける意思も能力も持っていないという、繰り返される情報機関の分析によって裏付けられていた。

この期間に、カタールはガザにおける復興事業や政府運営の主要な資金提供者となった。世界有数の富裕な国であるカタールは、かねてよりパレスチナ問題の擁護に尽力しており、近隣諸国の中で最もハマスとの緊密な関係を築いてきた。こうした関係は、ここ数週間、カタール当局者がガザに拘束されたイスラエル人人質の解放交渉を支援する中で、極めて価値があることが証明された。

この期間におけるカタールのガザでの活動は、イスラエル政府の承認を得ていた。さらにネタニヤフ首相は、カタールに代わってワシントンに働きかけさせた。2017 年、共和党がハマス支援を理由にカタールへの経済制裁を強行しようとした際、彼はイスラエルの国防当局の高官をワシントンに派遣した。この訪問に詳しい 3 人の関係者によると、イスラエル側は米国の議員に対し、カタールがガザ地区で建設的な役割を果たしてきたと説明したという。

イスラエル軍情報部の元調査部長であるヨッシ・クペルワッサー氏は、一部の当局者はガザ地区における「均衡」を維持することの利点を認識していたと述べ、「イスラエルの論理は、ハマスがガザを統治するのに十分な強さを持つべきだが、イスラエルによって抑止されるのに十分な弱さを持つべきだ、というものだった」と語った。

バラク・オバマ、ドナルド・J・トランプ、ジョー・R・バイデン・ジュニアの 3 人の米大統領政権は、ガザでの活動資金調達においてカタールが直接的な役割を果たすことを、概ね支持していた。

しかし、全員が賛同していたわけではない。アヴィグドール・リーベルマンは、2016 年にイスラエル国防相に就任して数ヶ月後、ネタニヤフ首相とイスラエル軍参謀総長宛てに秘密のメモを書いた。彼は、ハマスがイスラエルを攻撃するための軍事能力を徐々に構築していると述べ、イスラエルが先制攻撃を行うべきだと主張した。

イスラエルの目標は、「イスラエルとハマスとの次なる対立を最終決戦とすること」であると、彼は 2016 年 12 月 21 日付のメモに記した。その写しはタイムズ紙によって確認された。先制攻撃により、「ハマス軍事部門の指導部の大半」を排除できると彼は述べた。

ネタニヤフ氏はこの計画を拒否し、対決よりも封じ込めを優先した。

### <「資産」としてのハマス>

テロ資金の流れを追跡していたモサド工作員チームの中には、カタールからの資金提供にとどまらず、ネタニヤフ首相がハマスへの資金流入を阻止することについて、さほど懸念していないと考える者も存在していた。

例えば、ウジ・シャヤ氏は、中国銀行を通じて行われているとイスラエル情報機関が分析したハマスの資金洗浄活動を阻止しようと、中国に数回渡航したことがあった。

引退後、彼はハマスによるテロ攻撃の犠牲者の遺族が提起した米国での訴訟において、中国銀行に対する証言を求められた。

シャヤ氏は最近のインタビューで、当初モサドのトップが、証言すればハマスへの財政的圧力を強められるとして、証言するよう彼を後押ししていたと振り返った。

その後、中国側がネタニヤフ氏に国賓訪問を申し入れた。シャヤ氏は、突然、かつての上司たちから異なる命令を受けたと回想している。それは、証言してはならないというものだった。

ネタニヤフ氏は2013年5月、イスラエルと中国の経済・外交関係を強化する取り組みの一環として北京を訪問した。シャヤ氏は証言したかったが、「残念ながら、他にも考慮すべき点があった」と語った。

その決定の理由は確かめられなかったが、その方針転換に彼は疑念を抱いた。特に、政治家たちが時折、強いハマスの価値について公然と語っていたからだ。

退役将軍で、かつてイスラエルの国家安全保障担当補佐官を務めたシュロモ・ブロム氏は、勢力を増したハマスが、ネタニヤフ氏がパレスチナ国家をめぐる交渉を回避する助けになったと述べた。

「二国家解決を阻止する効果的な方法の一つは、ガザ地区とヨルダン川西岸地区を分断することだ」と、ブロム氏はインタビューで語った。この分断はネタニヤフ氏に和平交渉から離脱する口実を与え、彼は「交渉相手はいない」と言い訳できるのだとブロム氏に付け加えた。

ネタニヤフ氏はこの戦略を公には明言しなかったが、イスラエルの政治右派の一部には、そのような躊躇はなかった。

現在ネタニヤフ氏の財務相を務める極右政治家ベザレル・スモトリッチ氏は、2015年、自身が国会議員に選出された年に、この状況を「パレスチナ自治政府は重荷だが、ハマスは資産だ」と率直に述べた。

### <現金で満たされたスーツケース>

2018年の閣議で、ネタニヤフ首相の側近たちは新たな計画を提示した。それは、ハマスとの停戦合意の一環として、カタール政府が毎月、数百万ドルもの現金をガザ地区の人々に直接支払うというものだった。

イスラエルの国内諜報機関であるシン・ベットは、受給者リストを監視し、ハマス軍事部門のメンバーが直接的な利益を得ないように徹底する方針であった。

そうした保証にもかかわらず、反対意見は沸騰した。リーベルマン国防相はこの計画を屈服と見なし、2018年11月に辞任した。彼は公の場で、ネタニヤフ氏を「長期的な国家安全保障に深刻な損害を与える代償として、短期的な平和を買っている」と非難した。その後数年間、リーベルマン氏はネタニヤフ氏に対する最も激しい批判者の一人となった。

先月、自身の執務室で行われたインタビューの中で、リーベルマン氏は2018年の決定が10月7日の攻撃に直接つながったと述べた。

ヴァン＝ホーレン議員：しかし、ガザにおけるハマスの支配を維持する上でネタニヤフ首相が果たした役割は、それだけにとどまりませんでした。

議長、昨年12月の「ニューヨーク・タイムズ」紙に掲載された、「イスラエルは数年前からハマスの資金調達網を把握していた。しかし誰もそれを阻止しなかった」という見出しの記事について、議事録への収録を全会一致で同意するよう求めます。

(異議がなかったため、当該資料は議事録に以下のとおり収録されることが決定されました。)

【ニューヨーク・タイムズ紙より、2023年12月16日】

イスラエルは数年前からハマスの資金調達網を把握していた。しかし誰もそれを阻止しなかった  
(ジョー・ベッカー、ジャスティン・シェック著)

イスラエルの治安当局は2018年、重大な情報上の成果を上げた。それは、ハマスが活動資金を調達するために利用していた、いわばプライベート・エクイティ (PE) ファンドの仕組みを、極めて詳細に記した秘密文書であった。

ハマスの幹部のコンピューターから盗み出された帳簿には、数億ドル相当の資産が記載されていた。ハマスはスーダンにおける鉱業・養鶏・道路建設会社、アラブ首長国連邦のツインタワー、アルジェリアの不動産開発会社、さらにトルコ証券取引所に上場している不動産会社を所有していた。

ニューヨーク・タイムズ紙が検証したこれらの文書は、ハマスの資金源を断ち、その計画を阻止するための潜在的な道筋となるものであった。記録を入手した捜査官たちは、自国政府内とワシントンでその情報を共有した。しかし、何の進展もなかった。

長年に渡り、帳簿に名指しされた企業のいずれも、米国やイスラエルからの制裁を受けることはなかった。誰も公にこれらの企業を非難したり、金融ネットワークの拠点であるトルコに対し、そのネットワークを閉鎖するよう圧力をかけたりすることはなかった。

タイムズ紙の調査によると、イスラエルと米国の高官はいずれも、手元にあった金融情報 - ハマスが新たな武器を購入し、攻撃を準備していたまさにその時期に、数千万ドルが企業からハマスへ流れていたことを示す情報 - を優先的に扱わなかったことが判明した。

米国及びイスラエルの当局者は現在、その資金がハマスの軍事インフラの構築を助け、10月7日の攻撃の土台を築く一助となったと述べている。

「誰もが10月7日の情報収集の失敗について語っているが、資金の流れを阻止できなかったことについては誰も語っていない」と、モサド経済戦部門の元責任者であるウディ・レヴィ氏は語った。「これを可能にしたのは、金だ - 金なのだ」

イスラエルと米国の当局者によると、その資産ポートフォリオは最盛期には約5億ドルの価値があったという。

記録によれば、2022年に財務省がようやくこのネットワークに対して制裁を発動した後も、ハマスと関連する人物たちは、ブラックリストに掲載された企業の株式を売却することで数百万ドルを入手することができた。財務省は現在、こうした資金の流れによって、ハマスがイスラエルとの継続的な戦争の資金を調達し、戦争終結後に再建を図ることができるのではないかと懸念している。

「これは我々が深く懸念していることであり、ハマスが直面している財政的圧力を考慮すれば、起こり得ると予想している」と、財務省のテロ・金融情報担当次官であるブライアン・ネルソン氏は述べた。「我々が試みているのは、それを阻止することだ」

イスラエルのテロ資金対策捜査官たちは、2018年の発見を通じてまさにそれを実現しようとしていた。しかし、イスラエルと米国政府の上層部では、当局者たちがイランに対する一連の金融制裁の策定に注力していた。どちらの国も、ハマスを優先課題とはしていなかった。

イスラエルの指導者たちは、ハマスが戦闘よりも統治の方に関心を持っていると考えていた。2018年に職員たちが帳簿を発見した頃には、ベンヤミン・ネタニヤフ首相はカタール政府に対し、ガザ地区へ数百万ドルを送金するよう働きかけていた。彼は、その資金が安定と平和をもたらすだろうと賭けていたのだ。

レヴィ氏は、2015年にネタニヤフ氏に直接、ハマスに関する情報を報告したことを回想した。

「私が彼にこの件について話したことは間違いない」とレヴィ氏は述べた。「だが、彼はそれほど気にかけていなかった」

ネタニヤフ首相のモサド長官は、ハマスなどの組織への資金流入を阻止することに焦点を当てていたレヴィ氏のチーム、「タスクフォース・ハーブーン」を解散させた。

**ヴァン＝ホーレン議員**：その記事で引用されているレヴィ氏の言葉を引用したいと思います。彼は経済政策を担当していたモサド長官だった。彼はこう述べている。「私が彼 - ネタニヤフ首相のことだ - にこの件について話したことは間違いない。だが、彼はそれほど気にかけていなかった」

記事はさらに、ネタニヤフ首相のモサド長官が、ハマスなどの組織への資金の流れを断つことに焦点を当てた「ハーブーン」と呼ばれる特別チームを率いていたレヴィ氏のチームを解散させたことを指摘しています。

では、なぜネタニヤフ首相と、スモトリッチやベン・グヴィルといった極右の同盟者たちが、ガザにおけるハマスの存続を望んでいたのか、その理由に立ち返ってみることにしましょう。それは、彼らが公言している通り、彼らの第一の目標がパレスチナ国家の樹立を阻止することにあつたからです。そして、パレスチナ人を分裂させたままにしておける限り、彼らはそのような国家を求める統一された国民的運動を回避できました。そして、ハマスがガザを支配している限り、10月7日の惨劇が起こるまでは、西岸地区とガザを含むパレスチナ国家の承認を阻止する上で、ハマスは便利な盾として機能していました。

ハマスのガザ支配を脅かさないことの帰結として、西岸地区におけるパレスチナ自治政府は体系的に弱体化させられてきました。もちろん、恐ろしく皮肉なことに、イスラエルの破壊に専念し、今もなおイスラエルの破壊に専念しているハマスの存続を助長する一方で、ネタニヤフ首相とその同盟者たちは、オスロ合意以来30年以上も、イスラエルの存続権を認め、イスラエルとの共存を求めてきたパレスチナ自治政府とPLOを弱体化させてきたのです。

彼らの戦略とは、ハマスを存続させ、パレスチナ自治政府を弱体化させることでした。

実際、今日このガザ戦争の最中でさえ、スモトリッチ財務相はPAの自己資金のさらに大規模な差し押さえを行っており、ネタニヤフ政権は発足以来、入植地をさらに拡大させ、ヨルダン川西岸地区の奥深くにさらに多くの前哨基地の設置を容認してきました。そしてもちろん、こうした状況は、PAがヨルダン川西岸地区の特定の地域においてイスラエルの治安維持を支援しているにもかかわらず、そうした行動を阻止することが全くできないという実態を露呈させることで、パレスチナ人民の目から見た自治政府の正当性をさらに損なうことになっているのです。

つまり、ネタニヤフ首相は、パレスチナ人が自国で尊厳を持って生活することを阻止するため、パレスチナ自治政府を弱体化させ、ハマスを優遇するという戦略を推進してきたのです。そして、ネタニヤフ首相や、スモトリッチやベン・グヴィルといった彼の政権内の極右過激派たちが、ヨルダン川西岸地区にパレスチナ国家の樹立を望まない理由は、彼らが「大イスラエル [ソロモン王時代のイスラエル王国の領土に関する旧約聖書の解釈。現在のパレスチナ自治区ガザ地区とヨルダン川西岸だけでなく、現在のヨルダン、レバノン、シリアの一部

も含む]」と称する構想の下で、その全域を自分たちのものにしたがっているからです。

もしヨルダン川西岸にパレスチナ人がいたり、そこに留まっていたりすれば、「大イスラエル」 - 彼らなりの「一つの国家」という構想 - を実現することはできなくなります。

こうして、事態は元の状態に戻ったこととなります。UNRWA は、パレスチナ難民が追放された後に、教育などの支援を提供するための架け橋として設立されました。創設者たちは、これほど長く存続することになるとは予想していなかったはずで、おそらく、UNRWA 誕生のきっかけとなった紛争が、74 年経った今もなお未解決のまま残っているとは、想像もしていなかったからに違いありません。

しかし、紛争は未解決のままであり、今やネタニヤフ首相は、バイデン大統領が提唱する、イスラエルとサウジアラビア、まだイスラエルを承認していない他のアラブ諸国との関係正常化を含む、真の「二国家解決案」を最終的に実現することで紛争を解決しようという呼びかけに、公然と反対しています。これは、ユダヤ人国家イスラエルにとって不可欠な安全保障なのです。

そして、ネタニヤフ首相は、この紛争を解決するための二国家解決案を葬り去ろうとしている一方で、その紛争から生まれたわけではない組織、すなわち UNRWA を廃止し、同組織が現在パレスチナ難民に提供している支援を打ち切るという、自身の長期的な目標の達成も図ろうとしているのです。

米国はこの企てに加担すべきではありません。我々は、現在、飢えに苦しむ人々に切実に必要とされる食料や人道支援を届ける上で極めて重要な役割を果たしているガザにおける UNRWA への資金提供停止に加担してはなりません。また、ヨルダン川西岸地区やヨルダン、その他の地域で UNRWA が提供している不可欠な支援を打ち切ることに加担すべきではありません。

私は UNRWA の改革には賛成の立場ですが、その廃止には反対です。UNRWA への資金提供停止の問題は、現時点で、対外援助予算案における最大の未解決課題となっています。私は、上院及び下院の責任ある議員に対し、米国が UNRWA への資金提供を停止しないよう要請します。

UNRWA の廃止を主張する議員たちは、私たちの一部がそうしてきたように、エルサレムから少し車を走らせて UNRWA の学校を訪れ、医師や技術者、教育者になりたいという夢について語る若い生徒たちの話を聞くことさえ、一度もしたことがないのです。これらの学校には憎しみではなく希望があり、率直に言って、それこそが私たち米国上院議員が成すべきことであると思います。

私たちは希望の側に立つべきです。ガザでさらに多くの人々が飢えることに加担してはなりません。ヨルダン川西岸地区やヨルダン、その他の国々でパレスチナ人の生徒たちが通う学校が閉鎖されることに加担してはなりません。そして、米国は中東にさらなる不安定さを生み出すことに加担してはなりません。

多くの同僚議員やバイデン大統領と同様、私も、この暗いトンネルの先に一筋の光を見出す唯一の方法は、イスラエル国民の安全と、パレスチナ国民の尊厳及び自己決定権を保障する道を見出すことだと信じています。

だからこそ私は、同僚のシューマー上院議員の立場に賛同し、今朝彼が述べた重要かつ時宜を得た発言 - すなわち、パレスチナ国家の樹立と主権という構想を拒否することは、地域の安全保障、とりわけイスラエル人とパレスチナ人の安全保障にとって「重大な過ち」である - に賛同します。

ネタニヤフ首相は、二国家解決案はハマスに対する「大きな報酬」 - 彼は「報酬」と表現している - になると述べたが、真実はその逆です。ハマスにはただ一つの計画があります。それはイスラエル国家の破壊であり、ユダヤ人の民主国家を彼ら自身の国家に置き換えることです。ハマスが望むのは一つの国家で、二国家解決案はハマスが掲げるすべての理念や達成しようとする目標に反するものです。したがって、報酬どころか、ハマス支配下の一つの国家という彼らの目標を否定することになるのです。

今後の道のりが長く、困難なものになることは誰もが承知しています。10 月 7 日のハマスの凄惨な攻撃や、現在ガザで起きている人道的惨事の直後においては、平和と安定の時代を想像することさえ難しくなってい

ます。それは、イスラエルが安全の中で存続する権利を全面的に受け入れるパレスチナ指導者と、パレスチナ人が自立可能な独自の国家を持つ必要性を認めるイスラエル指導者の双方が、平和のために必要なリスクを共に負うときにのみ訪れるはずで

です。ですから、直ちなる停戦と全人質の解放を強く求め、この暗闇の時に一筋の希望の光を灯しましょう。以上です。

**議長**：サウスカロライナ州選出のリンゼー・グラム議員。

**リンゼー・グラム議員**：議長、UNRWAに関するメリーランド州選出の同僚議員 [ヴァン＝ホーレン議員のこと] への回答は後日行います。

しかし、本日この議論を注視されている方々に申し上げておきますが、私は国務・対外活動歳出小委員会の共和党筆頭委員であり、小委員会の共和党筆頭委員であり、クーンズ上院議員 [民主党の重鎮] とは非常に良好な関係を築いています。ヴァン＝ホーレン上院議員も同委員会に所属しています。私が支持するいかなる法案においても、UNRWAへの資金は一銭たりとも盛り込まれまれないと断言します。これは私だけではありません。コリンズ上院議員も同様です。彼女は、パティ・マレー上院議員と緊密に連携し、追加予算案の成立に尽力した筆頭委員です。なぜそう言えるのか？ それは、私たちがUNRWAの信頼性が損なわれていると確信しているからです。

私はここで、UNRWAがパレスチナ人コミュニティでユダヤ人の絶滅を教えるために使用している教科書をお見せしたいと思います。また、現地のUNRWA責任者たちが10月7日を祝っている様子を記した文書もお見せします。

このような証拠から、UNRWAはもはや信頼に足る組織ではなく、米国の納税者の税金を投入する価値はないという主張がなされています。UNRWAには一銭たりとも出すべきではありません。

パレスチナの人々を助けることは、学校での教育のあり方を変えることから始まります。私たちがドイツや日本を打ち負かした後、生まれてからずっと過激主義を教え込まれてきた人々を、過激主義から脱却させるのに長い時間がかかりました。ですから、私が今後時間をかけて実現してほしいと願っているのは、ヨルダン川西岸地区銀行やガザ地区のパレスチナ社会を率いる新たな指導者たちが、ユダヤ人の死を教えることをやめ、パレスチナの子供たちにより希望に満ちた人生を与えようとするようになることです。それが近い将来実現することを願っています。

私が発言を求めたのは、おそらく議長と同様に -

**ヴァン＝ホーレン議員**：サウスカロライナ州選出の上院議員 [リンゼー・グラム議員のこと]、質問のために、発言を譲っていただけますか？

**グラム議員**：最後まで話させてください。後で議論しましょう。私は飛行機に乗らなければなりません。

**ヴァン＝ホーレン議員**：私たちは本当に議論すべきです。なぜなら、あなたの主張を裏付ける証拠を私は全く知らないからです -

**議長**：サウスカロライナ州選出の上院議員に発言権があります。

**グラム議員**：私たちは下院に行き、私が述べたこと全てについて議論を行うつもりです。私の考えを最後まで述べさせて欲しいと思います。

**議長**：サウスカロライナ州選出の上院議員に発言権があります。

**グラム議員**：そう。私たちは、正しいことではなく、あらゆる悪事を働いてきたこのグループに権限を与えることが、いかに間違っているかについて、非常に活発な議論を行うつもりです。

さて、以上を述べた上で -

**ヴァン＝ホーレン議員**：その点について、発言を譲っていただけますか？

**グラム議員**：私の考えを最後まで述べさせてください。

シューマー上院議員とは、移民問題をはじめ、数多くの案件で協力してきました - 私は外交政策に関しては超党派的姿勢を心がけてきました。私の同僚である上院議長は、サウジアラビアとイスラエルが互いを承認する道を見出すために尽力する中で、私の最も親しい友人の一人でした。それが実現すれば、イランにとって大きな打撃となるでしょう。

私は、この議場にいる誰もがそうであるように、「シューマー上院議員の演説についてどう思うか」と尋ねられました。

私は呆気にとられました。私は常に彼を尊敬してきました。政治的には彼と意見が合わないけれども、彼が今日述べたことは、とてつもなく酷いものだと思います。米国上院の院内総務が、イスラエル国民に対し、自国の政府を打倒するよう呼びかけているのですから。

ビビ [ネタニヤフ首相のニックネーム] を好むか否かは問題ではないのです。問題は、この議会の誰かが他国に対し、その政府を倒せと命じるのが適切なのか、ということです。ここアメリカでも選挙が行われます。私は選挙を通じてバイデン政権を倒せることを願っていますが、それは私たちが決めることです。

これは非常に傷つく出来事で、私はほぼ一日中電話で人々に何が起きたのか説明しようとしてきましたが、納得のいく説明はできていません。

私たちはサウジアラビアに対し、唯一無二のユダヤ人国家を承認するよう働きかけています。現在の情勢を考えると、皇太子にとってそれは容易なことではないでしょう。

私たちはイスラエルに対し、現状がいつまでも続くわけではないという信念を持って一步踏み出し、パレスチナ社会が再建できるよう、いくつかの措置を講じるよう働きかけているところです。

現在、イスラエル国民の 75% は二国家解決案を支持していません。彼らは甚大な被害を受けてきました。イスラエルの政治家 - ガンツ [元国防相]、ラピド [2021~2022 年首相]、その他の誰一人として、誰であれ、一方的にパレスチナ国家を宣言することを支持していません。

米国の 5 人の大統領が、もしパレスチナ国家が誕生するならば、それは当事者間の無条件の直接交渉を通じて実現するものであると述べてきました。

トランプ政権下では、ジャレッド・クシュナー氏 [トランプの娘婿] がパレスチナ国家樹立の計画を持ち、ネタニヤフ首相も実際にこれに同意していました。

ここで重要なのは、アメリカは今何をすべきかということです。アメリカは無条件でイスラエルを支援すべきです。私たちはパレスチナの人々の苦しみを和らげる方法を見出そうと努めるべきであり、その最善の方法はハマスを壊滅させることです。これほど多くのパレスチナ人が殺害されている理由は、ハマスが彼らを人間の盾として利用しているからです。

私たちは文字通り、上下がひっくり返ったような世界に押し込まれ、著名な民主党議員たち - 私が尊敬する人々 - が、イスラエル国民に対し、自国の政府を倒すよう呼びかけているという状況に直面しています。こんなことは信じられないし、冗談かと思いました。今朝、誰かが私をからかっているのかとさえ思いました。これは、米国が同盟国とどのように関わるかという点において、極めて深刻な逸脱で、非常にデリケートな交渉に甚大な損害を与えたと思います。シューマー上院議員には、この件を再考することを望みます。

彼がそのような発言をすることで誰を喜ばせようとしているのかは分かりませんが、その相手は喜ばせる価値などありません。また、シューマー上院議員の目には、イスラエル政府は現在の姿のまま存続してはならず、イスラエル国民はもっとふさわしい指導者を見つけなければならない、などと言うことで、一体誰の機嫌を取る

うとしているのか、私にはさっぱり分かりません。

私はイスラエル国民に、私が好ましい人物を選出するよう求めているわけではありません。私が求めているのは、どの選挙でも自分たちが好ましい人物を選出することです。ホロコースト以来、最大のユダヤ人の犠牲者を出したこの事態の解決について、私の見解にイスラエル国民が従うよう求めているわけではありません。私は、イスラエル国民がハマスを壊滅させるために、無条件かつ全面的な支援を提供したいと考えているのです。

第二次世界大戦後、もし誰かがアメリカに対し、ナチスや日本を壊滅させることに関して「アクセルを緩めるべきだ」と提案していたら、その人物は町から追い出されていたでしょう。アカデミー賞を受賞したのは何でしたか？『オッペンハイマー』という映画です。それは、わが国が戦争を終結させるために原子爆弾を開発し、日本の二つの都市を破壊するために使用した経緯を描いた作品です。

理解しなければならないのは - 議長も理解しているし、あなたも下調べは済んでいるはずですが - 10月7日という日は、イスラエル国民にとって、真珠湾攻撃と 9.11 同時多発テロをさらに過激化したものだと理解しなければならないのです。これは単なるハマスの報復合戦ではありません。ハマスがユダヤ民族の背骨を折ろうとした試みであり、世界に見せつけるかのように残忍にレイプし、殺害しようとしたのです。

つまり、イスラエルが取るべき道について抱く見方は第二次世界大戦後に私たちが取るべきだと考えていたこと、すなわち「完全かつ徹底的な勝利」と似ています。全員を総動員し、戦争を終わらせ、ナチスを打倒するために必要なことを全て行い、日本帝国陸軍を - 断固として壊滅させるのです。

第二次世界大戦では何百万人もの人々が命を落としました。戦争とは文字通り地獄です。しかし、真珠湾攻撃や 9.11 のような攻撃を受けたならば、力強く応戦せざるを得ないでしょう。二度と同じことが起きないように確実にする必要があります。そして、イスラエルがこれを実現する唯一の方法は、ハマスの軍事能力を破壊することです。

では、なぜこのような事態になったのでしょうか？私は、いわゆる「大悪魔」であるイランが、サウジアラビアとイスラエル国家の和解を防ぎ、アラブ・イスラエル紛争に終止符を打たせるために、このような事態を望んだのだと考えています。アヤトラ [イランの最高指導者アヤトラ・アリ・ハメネイ師] にとっての悪夢とは、アラブ人とユダヤ人が和平を結び、経済的に統合し、自分たちを置き去りにしてしまうことなのだと思います。

イスラエルは、ビビの指導の下、6つのアラブ近隣諸国と協定を締結しています。

私が現地を訪れる際は、ラピド氏とも、ガンツ氏とも、そしてビビとも会談しています。誰とでも会うのは、これがビビだけの問題でも、ガンツ氏だけの問題でもなく、私たちの関係全体に関わる問題だからです。次回がガンツ氏であれラピド氏であれ、私は彼らと会談するつもりです。私は彼ら全員を知っており、ラピド氏とは非常に親しい友人で、ビビとは 25 年来の付き合いです。重要なのは、イスラエルの友人たちを助けるために、私たちは何をすべきかということだと思います。

この戦争を一日も早く終結させ、正常化プロセスを軌道に戻す方法を見つけられれば、これほど嬉しいことはありません。しかし、イスラエルが今ここで手を引くとは、期待できません。それは、火災の 80%を消火したようなもので - 残りの 20%がまた一から火事を再燃させてしまう恐れがあるからです。

ハマスには、パレスチナ国民とイスラエル国家に大混乱をもたらすために組織された軍事部隊が、現在 6 個旅団しか残っていません。これは交渉の余地のない事実で、ハマスは軍事的に壊滅させられるでしょう。

この混沌とした状況の中でも、サウジアラビアとイスラエルの関係正常化への道はまだ見出せることを願っています。それが実現すれば、この地域におけるイランの野望に決定的な打撃を与えることになるはずです。議長もご存知の通り、その合意の一環として、パレスチナ人は最終的に、より良い生活を送れるようになると思います。つまり、サウジアラビアと UAE がガザ地区とヨルダン川西岸地区に多額の投資を行い、新しく、若く、腐敗の少ない人々がその地を運営し、パレスチナ人とイスラエルが双方にとって有益な形で共存できる道筋を見

出せる可能性があるのです。

ハマスが壊滅するまでは、そのようなことは決して起こり得ないし、ハマスが依然として存在している限り、彼らはイスラエルと和平を結ぼうとする者を皆殺しにするでしょう。ハマスは以前にもそうしてきましたから。ヴァン＝ホーレン上院議員が述べたように、彼らにはユダヤ人国家を承認する意思などないのです。

しかし、冒頭で述べた点に戻って締めくくりたいと思います。シューマー上院議員が上院本会議で述べたことは、この国と上院を誤った道へと導くものです。政府に対し、実質的に自国民による打倒を求めるなど、私たち誰もが口にするべきことではありません。

結局のところ、ビビは問題ではないのです。問題は、見つかるユダヤ人を全て殺そうとする過激派イスラムなのです。問題は、ユダヤ人国家を破壊し、イスラムを「浄化」することを使命とするイランなのです。

アヤトラに力を与えるというバイデン・オバマ政権の政策については時間があれば語ることはできますが、それは今日の話題ではありません。

シューマー上院議員が本日述べたことに対して - シューマー上院議員への私の返答は、「失望した」ということです。あなたは多大な損害をもたらしました。友よ、これを是正する必要があると思います。

以上を申し上げ、発言を終わります。